

(1ページから続く)

しかし、そうは簡単にいかなかった。幹部が居並ぶ経営会議で、嚥下補助ゼリーのプレゼンテーションを行ったところ、「水を作ってほしいと言ったのに何を作っているのか」「まずい」と猛反発に遭い、却下された。水では薬を飲めない人が多いこと、ゼリーであれば喉につまらないメリットがあることを主張したが、昔からの役員が居並ぶ経営会議では通じなかった。

再度、経営会議に提案し、「病院では嚥下障害のある高齢者が食事に薬を混ぜている」などと現場の実情を訴えたが、「冗談じゃない」と却下。それでもあきらめず、また提案した。「そんなに言うならば現場を見に行こう」。視察後、社長が言った。「儲

からないかもしれないが、これはのど薬の専門メーカーであるわれわれがやらないといけない」。ようやく開発にゴーサインが出て、1998年に「嚥下補助ゼリー」が商品化された。

実際にこんなことがあった。医療機関で嚥下補助ゼリーの臨床試験を100例の患者で行ったところ、患者に食欲が戻ってきた。福居さんは、経管チューブを使用している患者がゼリーで薬を飲めるようになった結果、口から水も食事も摂取できようになり、1週間後には座れるまでに回復したケースを目の当たりにした。「口を使うということは大切なことだ。必ず商品にしよう」。その揺るがぬ決意が実った。この努力は、日本薬剤学会の「旭化成製剤学奨励賞」の受賞につながり、その後数々の賞を受賞した。

勉強は楽しい 広い視野持って

そんな福居さんだが、左遷される不遇の時代もあった。会社を辞めても良かったが、選んだのは「大好きな製剤をもう一度勉強して、薬剤師として製剤を極めたい」と大学院に進学する道。2008年に名城大学で薬学博士を取得した。いまでは海外で仕事をする時の重要な武器になっている。それが福居さんにとって重要な転機となった。

これまでに仕事で苦労したことを尋ねると、「社内の説得ですね」との答えが返ってきた。病院薬剤師として臨床現場を見てきた経験から、自ら企画した商品を製品化したいとの強い思いが突破力になった。

08年には、40年以上にわたり販売してきた鎮咳去痰薬「クララ」をブランドチェンジした水なしで服用できる顆粒タイプの「龍角散ダイレクト」、11年には「龍角散ののどすっきり飴」の開発を手がけ

た。

福居さんは、「喉は健康の入口だと思っているので、まずは喉を大切にしてもらいたい」と訴える。看板商品の龍角散は、粉薬で飲みにくかったり、独特の味からハードルが高いと感じる消費者も多い。そのため、まず服用しやすいのど飴や龍角散ダイレクトなどの商品を通じて、国民の喉を守っていきたいと考えている。「自分に合った商品を手に取りやすいように、のど飴や龍角散ダイレクトなどの効果的な使い方をわれわれの方から提案して、龍角散を知ってもらいたい」

260年の歴史を持つ龍角散は、「信頼性の固まり」と福居さん。それだけに、「260年の信頼を裏切らないよう皆さんに安心して使ってもらえるような活動をしていきたい」と今後の目標を語った。

薬学生に対しては、「薬学部に入った時点で、自



260年の歴史を持つ龍角散

分のレールを決めてしまっている学生が多い気がします。最初からレールを決めようと、視野が狭くなって楽しいことも見えてこなくなるので、もっと楽しんでほしいですね」とアドバイス。「薬学部はカリキュラムが詰まっていて、大学で勉強させられていると勘違いしてしまうが、本当は自分のために、自分から勉強させてもらっているから、勉強は義務ではなく、学ぶことであり、楽しい行為だと思います。ちょっとした気の持ちようで勉強も楽しくなるはずなので、もっと視野を広く持ち、薬学しかできないのではなく、薬学ができるから他のこともできるんだと優位な立場にあると思って、いろいろなことに興味を持ってほしいです」とメッセージを送る。

才能の発揮に必要なこと



メディセレスクール
社長

児島 恵美子

こんにちは。メディセレのしゃっちゃん、児島恵美子です。先日、週刊現代が「これから給与が下がる仕事、上がる仕事」という特集を組んでいました。給与が下がる仕事の1位は歯科医。27位が薬剤師でした。みなさんはこのことをどう考えますか？

人には幸せになる権利があります。でも、その権利を勝ち取るためには、人の役に立つように、人のためになるように生きるといふ、人間社会の義務を果たさなければいけません。それを考えると薬剤師という仕事は確実に人の役に立つ仕事です。幸せになる権利を得られる職業ですから、絶対薬剤師

国試予備校の現場から

になりましょう！

薬剤師になるための才能は誰にでもあります。必要なことは、何度も挫折しながら自分を信じ、やり続けられるかどうか。素直さや、人の意見に耳を傾けられるかも大事です。他の人が良い意見をくれているのに、こだわりやプライドで変われないなんてもったいない。才能を発揮できる人とできない人との違いが、そこに現れます。

勉強に行き詰まる人も同じです。「今までこのやり方でやってきましたから」と言って他人の意見を聞かない人が多いです。参考書をまずノートに書き写してからでないと勉強を始められない学生がいました。それは単なる作業です。薬剤師国家試験は6年間の集大成ですから、間に合いません。作業

ではなくアウトプットをしてほしいです。過去問やドリルや模試を解き、間違えたところの知識を確実に自分のものにし、深めることが重要です。

内閣府の規制改革推進会議は先月、患者が服薬指導を受ける場所の見直しや、一定条件下でのオンライン服薬指導の実現、電子処方箋実務の完全電子化、医薬品添付文書の電子化を提言しました。将来、遠隔診療の世界で薬剤師が活躍するかもしれません。週刊現代にはあのように書かれましたが、未来は自分を変えるものです。薬剤師はニーズに応じてスタイルを変え、必要な情報とサービスを提供し続けていけば、評価はついてきます。ヘルスケアという大きな枠で共に活躍していきましょう！

薬学生のための求人情報サイト

プレOPEN中!
先行登録受付

ファーネット2019&2020

病院求人件数

全国の病院・薬局を300件以上掲載!

<http://www.pha-net.jp/>

ファーネット

検索

ナンバーワン!

今すぐ
登録!